



Katsuyama Global Camp 開催！ 英語が「わからない」から 「楽しい」へ

夏休み期間の8月6日と7日。英語をより実践体験できる『Katsuyama Global Camp』（略してKGC）を開催しました。

今回は市内の小学6年生12人がCIR（国際交流員）やALT（外国語指導助手）、福井大学の学生、留学生と一緒に英語を使ってゲームやクイズ、他国のゲームなどを体験しました。

CIR・ALT・留学生の出身国



Katsuyama Global Campでは、「英語に親しむこと」「さまざまな文化や価値観に触れること」「仲間と協力しながら学ぶこと」の3つを大切に企画しました。

キャンプ終了後に、参加者の保護者から「キャンプをきっかけに、こどもが自ら困っている外国の方に声をかけ、助けようとしていた」というお話を伺いました。英語を学ぶだけでなく、海外の人々との交流を通して、こどもたちが成長したことを感じました。これからも、こどもたちが様々な人や文化との出会いを通して、積極性や自主性を育み、一人ひとりの成長につながる機会をつくっていききたいと思います。

国際交流員 アユミ



day1

わからない不安からスタート

現在、小学校では学習指導要領に基づき3年生から英語教育が行われています。しかし、普段一緒に学習していないCIRやALTと英語で交流すると、こどもたちも少し緊張した様子。「英語がわかるかな?」「どんなことをするのだろう?」といったところからキャンプがスタートしました。

ゲームを通して広がる笑顔へ

こどもたちは、聞き慣れない英語を一生懸命に聞き取りながら活動に参加しました。時折日本語のサポートを受けながら英語への理解を深め、積極的に英会話にチャレンジ。

ゲームを交えた活動で次第に緊張もほぐれ、笑いや笑顔が増えていくこどもたちの姿がありました。

ライティングにも挑戦。

ゲーム名は「2つの事実と1つの嘘」。自分について3つの英文を書き、そのうち1つだけその内容を入れます。参加者同士で紹介文を見せ合いながら、どの文章がうそなのかを英語で考え、楽しみながら読む力や書く力を磨いていました。



day2



どんどん英会話にチャレンジ

2日目は『宝探し』とインド発祥の鬼ごっこ「コーコー」にチャレンジしました。宝探しでは宝を見つけるためのミッションやヒントがすべて英語で出され、こどもたちは学校で学んだ英語を思い出しながら宝を見つけ出していました。

またインド発祥の伝統的な鬼ごっこ「コーコー」の体験では、初めて触れる異国の遊びに最初は戸惑う様子も見られましたが、ゲームが始まるとすぐルールを理解し楽しんでいました。



その他にも…

出身国の紹介、伝言ゲーム、クッキング、うちわ作りとサイン会など盛りだくさんなイベントとなりました



勝山には様々な国からやってきた方が住んでいます。母国語が英語ではなくても、少しでも英語や日本語を話せる可能性もあります。

こどもたちには、外国の方と話す勇気を持ってコミュニケーションをとってもらいたいと思っています。

キャンプでは勇気をだして外国の方と話すこどもたちの姿があり、とても嬉しくなりました。

国際交流員 ピーター

